



IGU Regional Conference 2015に参加して

広域システム科学系博士課程1年 申 知燕（荒井研究室）

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」のご支援を頂きまして、2015年8月17日から21日にかけて、ロシア・モスクワのモスクワ国立大学で行われた IGU Regional Conference 2015 に参加しました。この会議は、IGU(International Geographical Union)が毎年開催する国際学会で、地理学の分野では最も権威のある会議の一つです。

今回私は、Urban commission の Urban Challenges in a Complex World-Complex Urban System というセッションで、「Transnational Migration and Socio-spatial Reconstruction of Korea towns in New York」という題で口頭発表を行いました。発表はニューヨークにおける韓国系移住者の移動経路や定住過程の変遷と、それらによる集住地の空間的变化を主な内容としていて、高学歴・高所得の若年層移住者が先進国の大都市圏に移住することによって、移住者空間が分化・多様化するということを3つのコリアタウンを事例に明らかにしようとしていました。15分間の発表が終わってからは、会場にいらした研究者の方々と議論をし、今後の研究の方向性や手法などについて、多くの意見を頂きました。また、自分の発表のみならず、世界各国から集まった研究者の発表と講演を聞きながら、自分が研究していた移住研究はもちろん、地理学全般においても、最新の動向を少しながら把握することができました。特に、すでに多民族化が進んでいる地域をフィールドとしている方々の研究報告を聞きながら、今後さらに世界各国からの移住者が増加すると思われる日本社会を研究する際に参考できるような、様々な情報と方法論を学ぶことができたのも大事な収穫でした。

今回の会議は自分にとって、初めて参加する世界規模の学会であり、今までは知らなかった様々なテーマや手法を勉強し、自分の研究をより広い視点で見直すきっかけにもなりました。学会参加後、帰国するまでにロンドンで行った現地調査でも、頂いた意見をもとにアプローチを改善した結果、良質な調査結果が得られました。本学会において学んだことを最大限活かし、今後の研究活動に役立てたいと思います。



写真1 学会会場

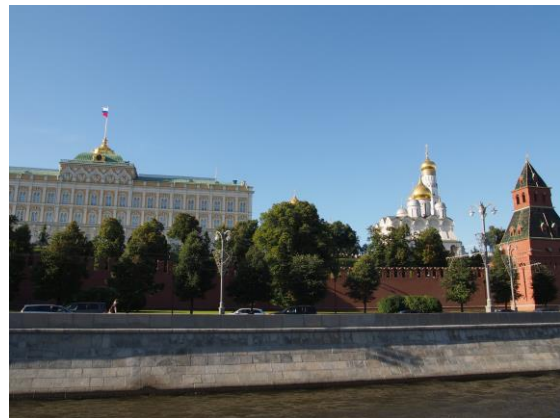


写真2 モスクワの街並み